

従業員とともに

従業員も重要なステークホルダーという認識のもと、従業員一人ひとりが安心して仕事に全力投球できる環境の整備に取り組んでいます。

雇用と処遇

□採用活動

ハリマ化成では、雇用機会均等と多様性を尊重し、人種・宗教・国籍・年齢・性別などによって差別しないことを基本方針としています。また、ホームページ、各種広報媒体を活用し、応募機会を広く提供しています。

特に、社会問題となっている就業率の低下や安定雇用の確保に対しても、中途採用を推進し、また派遣社員から正社員への雇用の転換を進めるなど雇用機会の拡大と雇用の安定に努めています。

□定年退職者再雇用制度

2006年4月より、定年退職者が健康で60歳以降も継続して働く意欲がある場合で、かつ一定の条件を満たし会社との合意ができた場合は、継続して働くことができる継続雇用制度を導入しています。

□育児休業・介護休業制度

ハリマ化成では、早くから育児休業制度(1992年)、介護休業制度(1998年)を導入し、仕事と家庭の両立を支援するための制度を整備しています。

<育児休業等の取得実績> (人)

	2005年度	2006年度	2007年度
産前産後休業	2	1	2
育児休業	2	1	3
介護休業	0	0	0

人材育成

ハリマ化成では、従業員一人ひとりの能力向上を支援するために教育研修にも力を入れています。また、自己啓発を支援するため通信教育や語学研修費用の補助を行っています。

[主な研修プログラム]

- 新入社員研修(フォロー研修含む)
- リフレッシュ研修(2年目社員研修)
- 目的別研修(語学研修、ライティングセミナー、コーチングセミナー)
- チャレンジ研修(3年目社員研修)
- キャリア開発研修(中途採用者研修)
- 女性社員キャリア形成研修
- 昇格者研修(指導職、監督職、管理職)
- 留学制度(海外留学、語学留学、国内留学)
- 選抜研修
- 役職者研修
- 幹部候補者研修(上級職クラス)
- 管理職研修
- 経営幹部候補者研修(管理職クラス)

※研修プログラムについては、年間実施計画およびその内容を社内のイントラネット上にオープンにし、自己のビジネスプラン形成や部下の育成に活用できる体制としています。

また、2007年3月より、コンプライアンス教育の一環として、基本の重要性を再確認し徹底するため、「基本動作研修」を実施しています。

評価、報酬制度

ハリマ化成では、「人を大切にするグローバルカンパニー」を目指す組織風土の醸成、次代を担う人材の育成に資する制度として、成果だけでなく、行動評価(プロセス)を評価項目として取り入れ、更にはチャレンジに対して、その努力にも報いる加点主義を基本方針とした透明性の高い評価制度を導入しています。

従業員は、役割責任にリンクした行動評価基準の公開により、一人ひとりが担っている職務に対して求められる行動、能力、資質を理解し、自らが育成課題を掲げ、その結果が報酬に反映されます。また、現在の役割基準を上回るチャレンジ課題に挑戦する制度を設けており、この

チャレンジ課題は未達成であっても評価の減点はなく、達成すれば加点する制度として運用しており、果敢にチャレンジできる風土の醸成と人材育成のスピード化を図っています。

成果主義に束縛されず、行動評価とチャレンジ課題への挑戦を通して、働きがいのある環境を整備しています。

特に、制度の運用面では、評価者訓練において、「評価のための評価制度」ではなく、「育成のための評価制度」であることを徹底し、制度が高い納得性をもって、より効果的に実効性を持って運用されるよう努めています。

従業員とともに

福利厚生

ハリマ化成では、従業員が持てる能力を最大限発揮できる環境をつくり出すための福利厚生制度や、従業員自身が病気になったり、家族の介護が必要になったときなど、いざというときのセーフティネットとなる制度も整備しています。

2004年10月に導入した長期休業補償制度は従業員が病気やケガで就業できなくなった場合に、収入の減少をカバーし家族の生活をサポートするための制度で、社会保険での補償期間18ヶ月を超えて就業できない状態が

継続した場合に、最長満60歳まで収入をカバーする制度です。本制度では会社が基準給与月額60%を補償し、従業員の任意加入上乗せにより最大基準給与月額の90%が補償されます。また、本制度では長期休業者への復職支援も行っています。

また、2008年1月よりメンタルヘルスケア制度を導入し、従業員だけでなく従業員の家族も利用できる体制を整えています。

健康・医療・メンタルヘルス相談サービス

社員とその家族（配偶者および被扶養者）の体と心の健康の保持・増進と各個人のセルフケアのサポートを目的として、2007年12月28日より、健康・医療・メンタルヘルスに関する相談サービスを導入致しました。

ストレス・メンタルヘルス（心の健康）に関する企業内での対策は、近年の精神障害等の労災認定の急増、

病気休職・復職をめぐる裁判例の増加等、企業の安全配慮義務の観点から、また、「労働安全衛生法の改正」や「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針の見直し」という法的な面からも大きくクローズアップされています。

株主・投資家の皆様とともに

株主・投資家の皆様に対して、適時・適切で公平な情報公開に努め、積極的な対話を心がけていきます。

開かれた株主総会へ

より多くの株主の皆様にご出席いただける「開かれた株主総会」を目的に、会場を初めて社外に移し、加古川プラザホテルで開催いたしました。

総会会場には150インチの大型スクリーンと大型プロジェクター2基を設置し、事業報告をナレーションと映像で行いました。また、決議事項の議案もスクリーンで表示するなど、わかりやすさに重点を置いた総会運営を行いました。



株主総会終了後には株主懇談会をホテル内で開催し、多数の株主にご出席いただきました。その後、加古川製造所の工場視察も行いました。

これからも、株主の皆様によりわかりやすく、親しみを感じていただけるように工夫した総会の運営を行います。

株主懇談会のようす



株主総会の会場

社会とともに

ハリマ化成では財団活動などを通じて、科学技術の振興、芸術、文化活動の支援や人材育成に取り組んでいます。

松籟科学技術振興財団 第25回研究助成金を贈呈

2008年2月29日、財団法人松籟科学技術振興財団（理事長：長谷川吉弘、ハリマ化成株式会社社長）の第25回研究助成金の贈呈式が開催されました。

贈呈式では文部科学大臣のご祝辞を文部科学省研究振興局の振興企画課長からご披露いただきました。受賞者を代表して広島大学大学院工学研究科の大下浄治教授より挨拶をいただき、その後、2004年度研究助成金受賞者の東北大学大学院理学研究科の上田実教授より「植物の活動電位発生に関与する生理活性物質」と題する研究成果の発表をいただきました。

当財団は1983年に設立され、科学技術の振興と世界文化の発展に寄与することを願い「研究助成事業」、「国際

交流派遣事業」「科学技術の振興に業績を挙げた者に対する表彰」、「その他、当財団の目的を達成するために必要な事業」を行っております。

研究助成事業におきましては、2007年度の研究テーマであった、「植物由来の化学物質に関する研究」、「エレクトロニクス複合材料に関する研究」、「機能性有機材料に関する研究」の3テーマについて、優れた研究に対して助成金を贈呈いたしております。本年度を含めて延べ486名の方々に総額5億3,920万円の助成金を交付しております。

ノーベル化学賞を受賞された野依良治博士は第4回（1986年）に助成を受けられています。



第25回研究助成を受けた方々と長谷川理事長（前列中央）

※財団法人松籟科学技術振興財団【設立：1983年3月1日、所管官庁：文部科学省、基本金：5億4千25万円】

■「川の絵画大賞展」への協賛

当社発祥の地である兵庫県加古川市は、一級河川加古川の恵みを受け発展してきたことから1995年に川との共生を考える「全国川サミットin加古川」を開催し、その一環として、全国応募の「川の絵画大賞展」を毎年開催しています。

当社の文化事業の振興への貢献は多岐にわたっていますが、「川の絵画大賞展」にも第1回より協賛しており、このたび第10回の開催にあたり加古川市より感謝状の贈呈を受けました。



川の絵画大賞展ポスター

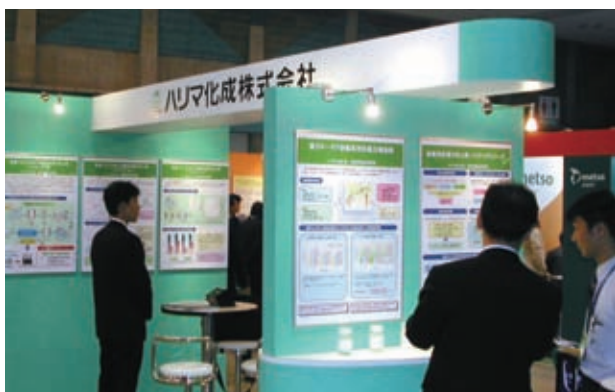
お客様とともに

展示会などを通じて、お客様と積極的にコミュニケーションを図っています。

平成19年度紙パルプ技術協会年次大会で 当社研究員が発表しました。

製紙用薬品事業部 2007.10.10~12

発表は、古紙の有効利用と製紙会社のゼロエミッション化に貢献する環境改善型薬品というコンセプトの下に開発した商品について行いました。また、展示会では発表内容を中心に展示し、多くのお客様がご来場されました。



展示会のようす

「セミコン・ジャパン2007」に出展

電子材料事業部 2007.12.5~7

千葉県幕張メッセにおいて、世界最大の半導体製造装置と関連部材の国際展示会が開催されました。当社は、ここ3年連続して出展しており、ブースには370名のお客様にご来場いただき、活発な情報交換が行えました。



当社ブースのようす

「インターネプコンワールドジャパン2008」に出展

電子材料事業部 2008.1.16~18

インターネプコンワールドジャパンはエレクトロニクス製造・実装に関する装置、技術、部品・材料を一堂に集めたアジア最大規模の展示会です。プレゼンテーション・パネル展示コーナーには連日大勢のお客様においでいただき、期間にご来場いただいたお客様は1,560名となりました。中でも先端材料であるナノペーストやスーパーソルダー、蛍光色素に関するお問い合わせを多くいただきました。



プレゼンテーションの様様

「新機能性材料展2008」に初出展

樹脂・化成部品事業部、中央研究所開発室 2008.2.13~15

「新機能性材料展」は、あらゆる分野の高機能性素材・製品、高付加価値技術の総合展であり、新規ビジネス創出の場として注目が高い展示会です。

当社は、新たに開発した4品種を出展し、1,300名を超えるお客様にご来場いただきました。



当社ブースのようす



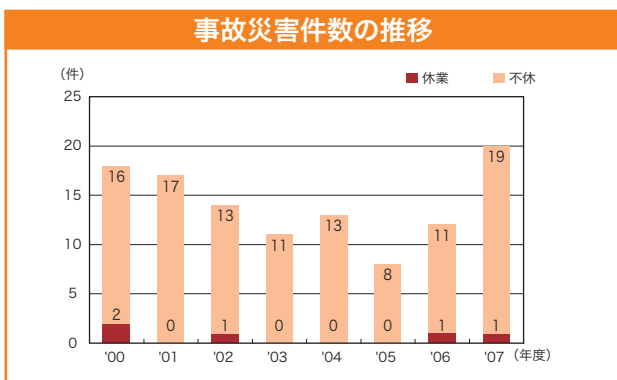
来客で賑わう当社ブース

労働安全衛生の取り組み

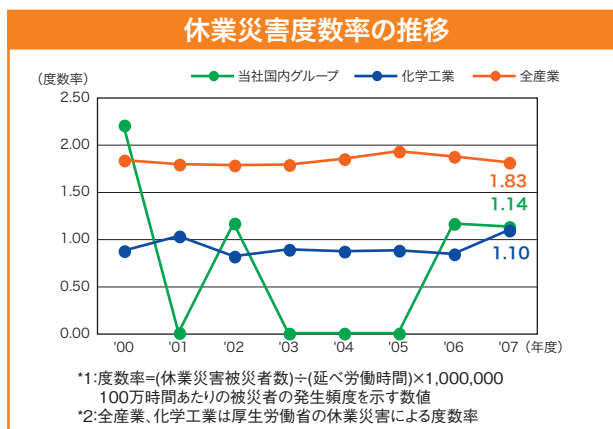
安全をすべてに優先させるという基本理念のもとに、働く人の安全と健康を確保する取り組みを行っています。

労働安全

労働災害を撲滅するために安全教育をはじめKYT、ヒヤリハット、安全パトロールなどのさまざまな運動を行ってきました。



(注) 1. 集計対象は1ページ記載の国内の事業所および関連会社
2. 年度集計は1月～12月



全社安全大会の実施

昨年は創立60周年を迎える節目の年であり、今一度、創業の精神に立ち帰り全社員の安全衛生に対する取り組みに対して、徹底した意識改革を図ることを目的に、2007年7月2日に全社安全大会を実施しました。

当日は各拠点長も参加し、安全決意表明、改善活動の発表、各安全表彰、外部講師による講演会を行いました。

また、全社事故発生状況の報告や過去の重大災害事例報告などもあわせて行いました。



中央安全衛生委員長によるあいさつ



全社安全大会のようす

安全体感研修

2007年度より安全への感性を高めるため、外部教育機関による体験学習を取り入れ、高所危険体感、玉掛け作業危険体感、挟まれ・巻き込まれ危険体感、電気危険体感、フォークリフト危険体感、爆発危険体感を体験しました。

工場見学

他社の安全衛生に対する取り組みを学ぶため2007年10月18日に工場見学を行いました。



その他、2007年度の主な重点実施事項

- ・新入社員教育
- ・KYT競技会の開催
- ・放水競技会の開催
- ・委員会、役職による安全パトロール
- ・講演会、ビデオ研修、立哨、PRニュースなどによる意識高揚
- ・AED講習会の開催



新入社員に対するKYT教育 (2007.4.10)



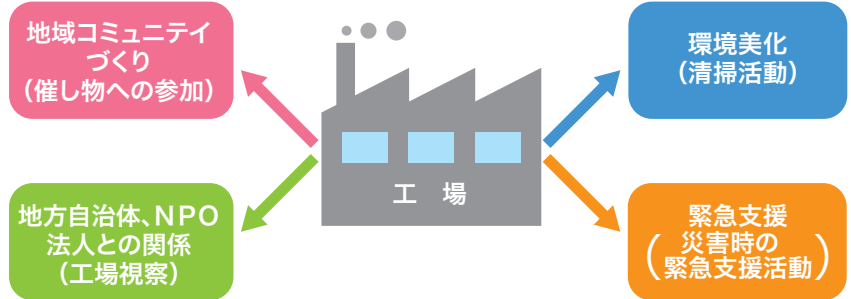
ストレッチ体操を交えた衛生講演会を開催しました。(2007.10.5)

地域社会とともに

「地域とともに発展することが企業の使命である」との認識にもとづき、地域の皆様とのよりよい関係づくりを心がけています。

情報開示

工場視察を通して当社の事業活動や環境への取り組みなどを紹介し、社会の一員として、地域の一員として相互理解を深めています。



●清掃活動

自ら主催する活動のほか、地域が主催する活動にも参加しています。



工場周辺の泥、ゴミの回収(茨城工場)2007.6



工場周辺のゴミ回収(東京工場)2007.6



工場周辺の掃除(仙台工場)2007.6

●町内会の夏祭りに参加(2007.8.18)

加古川製造所のある水足町内会で夏祭りが開催され、当社もそば屋を出店し、地元の方々と共に夏のひとときを楽しく過ごしました。



●工場視察

皆様との交流、相互理解を深めるため工場視察を実施し、有意義な意見交換などを行っています。



エコプロフィット 2007.6.19



企業の工場視察 2008.1.23

●育成活動

学生を対象とした工場見学会や職場体験のためのインターンシップなどを実施しています。



中学生を対象としたトライやる・ウィーク 2007.6.4~8



小学校を対象とした工場見学 2007.10.16



高校生を対象としたインターンシップ 2007.11.12~15

スーパーサイエンススクール支援

加古川製造所の近隣にある兵庫県立加古川東高等学校は、2006年度に理数系教育に重点を置く文部科学



省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けています。当社は、同校の要請を受けSSH設立時より運営指導委員会の委員および研究アドバイザーとして参画しています。この度、研究グループが2年間の研究を終え、当社が指導した「ポリ乳酸の合成」に関するテーマが地球環境に則した優秀な研究として認められました。



(左)当社実験室で学習するメンバー
(右)メンバーが試作したポリ乳酸樹脂

出展ブースでの当社製品紹介

●加古川楽市

2007年9月8,9日、加古川商工会議所青年部主催の「加古川楽市」が開催され、当社も出展いたしました。ロジンについて用途の紹介や体験コーナーで市民とのふれあいを楽しみました。



(上)ストリングラフィアの体験コーナー。松脂を塗った絹糸の両端に紙コップをつけた弦楽器で音をだす実験。

(右)当社ブース



●米村 でんじろうサイエンスショー

2008年3月9日、加古川市民会館においてテレビなどで幅広く活躍されている「米村でんじろうサイエンスショー」が開催され、あわせて行われた「手づくり体験コーナー」に当社も出展いたしました。

また、渡海紀三朗文部科学大臣(当時)にもご視察いただき、非常に充実した取り組みになりました。



(上)多くの子供たちの注目を集めた当社コーナー

(右)渡海紀三朗文部科学大臣(当時)のご視察



保安防災の取り組み

防災への対応を怠らず、日常業務の中で企業防災を心がけています。

●防災訓練

当社内の防災訓練は各拠点において毎年実施しており、拠点に応じたより実践的な内容で行っています。また、防災グッズを全社員に配布し災害時に身につけるよう徹底しています。



訓練時は防災グッズを身につけて行っています。

□加古川製造所(2007.12.17)

加古川東消防署のご協力、加古川警察署、町内の方々、地元新聞社の視察のもと訓練を行いました。

今回は新たに非常用自家発電機を使った水と電気を確保する災害後復旧訓練を行いました。この訓練は所内だけでなく、地域への緊急対応を視野に入れたものであり、所内の災害対策マップを視察者に配布、地域の災害復旧拠点としての設備を皆様に評価頂きました。



自家発電にてポンプを稼働し、地域住民への給水訓練を行いました。



AEDを用いた救急処置訓練を行いました。



消防署、自衛消防隊との合同放水訓練を行いました。

□茨城工場(2007.12.17)

阿見町消防本部のご協力のもと訓練を行いました。

今回の目玉として、救急隊員の方から三角巾を使った様々な止血方法など、とっさに役立つ応急手当をご指導頂きました。



□東京工場(2008.2.25)

地元の方々を迎え、草加消防署青柳分署のご協力のもと訓練を行いました。



□大阪本社(2008.3.12)

大阪本社の入居するビルで自衛消防避難訓練が実施され、避難誘導から初期消火までの一連の流れを実践的に行いました。

訓練では、各人が避難時に持参した防災グッズについて他フロア企業から質問を受けるなど、充実した訓練が行えました。



□東京本社(2008.2.27)

東京本社が入居するビルで消防訓練が行われました。今回は、新入社員、異動者へ重点的に防災教育を行いました。



【注釈】

AED:多くの突然死の原因である心臓の危険な状態のとき、心臓を蘇生するように電気ショックを与える機械です。119番で救急車を呼んでから到着するまで平均6.5分かかります。現場に居た人がAEDを3分後に使えば70%助かりますが、救急隊員が到着してからは35%しか助かりません。